

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	家族介護者の役割喪失感と医療専門家との交流による家族介護者の役割の形成に関する研究
Title(English)	A study on a family caregiver ' s sense of role loss and the shaping of the family caregiver role through interactions with healthcare professionals
著者(和文)	DEARAUJO RIBEIRO Lisa
Author(English)	Lisa Ribeiro
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第11846号, 授与年月日:2022年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:妹尾 大,西田 佳史,顧 秀珠,SEABORN KATIE,毛塚 和宏
Citation(English)	Degree:Doctor (Academic), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第11846号, Conferred date:2022/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

(博士課程)

論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第	号	学位申請者氏名	DE ARAUJO RIBEIRO, Lisa	
論文審査 審査員		氏名	職名	氏名	職名
	主査	妹尾 大	教授	毛塚 和宏	講師
	審査員	西田 佳史	教授		
		顧 秀珠	准教授		
SEABORN, Katie		准教授			

論文審査の要旨 (2000 字程度)

本論文は、「A study on a family caregiver's sense of role loss and the shaping of the family caregiver role through interactions with healthcare professionals (家族介護者の役割喪失感と医療専門家との交流による家族介護者の役割の形成に関する研究)」と題し、医療チームの中で被介護者に最も近いところで介護を行いながらも、これまであまり光が当てられなかった「家族介護者」について、その役割喪失感が介護体験に与える影響を、包括的で体系的な調査を通じて明らかにしたものであり、5章よりなっている。

第1章「Introduction (序論)」では、在宅介護ニーズが増えている現状を概観し、家族介護者が重要な役割を果たすことを論じている。そのうえで、家族介護者の経験を理解し、介護経験の改善に役立つ示唆を与えることを本論文の狙いに据えている。介護のプロセスを通じて家族介護者は、役割や責任の変化を感じると役割喪失感を持つ。この役割喪失感が介護体験にどのように影響するかは未解明である。本論文は、研究課題1: 家族介護者の役割喪失感、介護体験にどのような影響を与えるのか、および研究課題2: 家族介護者と医療従事者の相互作用によって、家族介護者の役割はどのように形成されるのか、に取り組むとしている。

第2章「Theoretical Background (理論的背景)」では、本論文に関連する概念や理論の文献レビューを展開している。具体的には、役割遂行理論、役割移行理論、介護者アイデンティティ理論、アクター・ネットワーク理論、文化歴史活動理論、場の理論の文献をレビューしている。

第3章「A family caregiver's sense of role loss (家族介護者の役割喪失感)」では、家族介護者の役割喪失感が介護体験に与える影響を探索し、家族介護者の介護体験の変遷を把握するためにオンライン調査を実施した。これによって得た66の回答を、回答者の主な役割に基づいて3つのグループに分類し、質的データを主題分析 (Thematic analysis) して比較している。その結果、家族介護者の役割交代の際に役割喪失感が生じる可能性が示された。役割交代は、家族介護者が介護から距離を置くことを可能にし、役割喪失感は家族介護者自身の人生における個人選択と自己を優先する感覚を維持または回復するためのツールとなり得る、という従来の研究では述べられていない肯定的で前向きな側面が、研究課題1への回答として示されている。

第4章「Shaping the family caregiver role through interactions with the healthcare professional (医療専門家との交流による家族介護者の役割の形成)」では、医療従事者と家族介護者の相互作用が、介護者の役割の形成にどのように寄与しているかを探っている。オンライン調査によって8人の医療従事者と12人の家族介護者から得た回答を、フレームワーク法とテキストマイニングによって分析し、共起ネットワーク図を作成した。その結果、医療従事者と家族介護者の相互作用がある場合には、家族介護者の役割はあらかじめ定義されており、期待に沿った活動を実行する傾向が見いだされた。これとは異なり、被介護者と家族介護者の相互作用がある場合には、タスクと活動の絶え間ない交渉と変容が起こっており、これによって家族介護者は、被介護者のその時の状況に適したケアを提供し続けることができた。これらの発見事項が、研究課題2への回答として示されている。

第5章「Conclusions (結論)」では、本研究の内容を研究課題ごとにまとめるとともに、最終的な考察を述べている。さらに、理論的示唆と学術的示唆、および本研究の限界を論じている。

以上、これを要するに本論文は、家族介護者の役割と介護体験という重要かつ複雑な研究対象に切り込み、家族介護者の役割交代と役割喪失感についての新たな側面を記述し、2つの異なる役割形成のプロセスを発見することで、家族介護者と医療従事者と被介護者の結びつきを再構成するための指針を示しており、学術上貢献するところが大きい。よって、博士 (学術) の学位論文として十分価値があるものと認める。

注意: 「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。